

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	12-126	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
The overlap of youth violence among aggressive adolescents with past-year alcohol use-A latent class analysis: aggression and victimization in peer and dating violence in an inner city emergency department sample. 飲酒歴のある攻撃的な若者における暴力の重なり-潜在クラス分析: 都心救急部門での集団および交際者間の暴力と虐待		
執筆者		
Whiteside LK, Ranney ML, Chermack ST, Zimmerman MA, Cunningham RM, Walton MA.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 Jan;74(1):125-35.		
キーワード		
暴力、虐待、飲酒、潜在クラス分析、物質乱用		
要 旨		
目的: 本研究の目的は潜在クラス分析を用いて飲酒歴のある攻撃的な若者における集団および交際者間の暴力と虐待を分析し、暴力の種類を特定すること、またそれぞれの暴力クラスと関連するリスクおよび保護的因子を特定することである。		
方法: 2006年9月から2009年9月の間で、都心救急部を受診した14~18歳の若者を対象とした。そのうち過去の飲酒および暴力を申告した若者について、暴力の種類(集団間または交際者に対する重度から中等度の暴力、重度から中等度の虐待)を標準化された方法で測定した。潜在クラス分析を用いて、暴力クラスを特定し、また潜在クラス分析における各因子の相関性について検討した。		
結果: 分析対象となった694人について、潜在クラス分析により、集団暴力PA(52.2%)、集団暴力かつ虐待PAPV(18.6%)、多領域の暴力MDV(29.3%)の3つのクラスに分類された。PA群と比較して、PAPV群では男性が多く、喧嘩による外傷の報告が多く、非行集団をより有していた。PA群と比較して、MDV群では女性が多く、アフリカ系アメリカ人が多く、喧嘩による外傷の報告が多く、武装していることが多く、飲酒による負の影響をより経験しており、また非行集団を多く有しており、更に家庭内対立の割合が高かった。PAPV群と比較して、MDV群では女性が多く、アフリカ系アメリカ人が多く、公共の支援を受けている割合が高く、より武装しており、飲酒による負の影響をより経験しており、またマリファナの使用率が高かった。		
結論: 集団間と交際者間とともに、暴力と虐待の広範囲にわたる重複を確認した。各暴力の重複度が高いほど、飲酒の問題とマリファナ使用の割合が高かった。よって、暴力を予防するためには、付随する物質乱用を解決することを考慮すべきである。		